

経営資料

No.199 会社訪問

代表取締役社長 岩井 佳子氏



岩井化学薬品株式会社

会社プロフィール

代表者: 代表取締役社長 岩井佳子

本社: 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-10

TEL: 03-3241-2572(代) FAX: 03-3270-2444

営業本部: 東京都千代田区岩本町(神田第二ビル)

商品管理センター: 東京都千代田区岩本町(神田ビル)

営業所: 筑波、多摩、三島、柏、川崎

関連会社: Iwai North America (INA), Chondrex, Inc.

岩井総合企画株式会社

創業: 1947年(昭和22年)4月

資本金: 2,000万円 従業員: 208名

事業内容: 試薬用、化学・工業用薬品および実験用機器の輸出入、販売。

医薬品・香料・医療用機器・雑貨品・消耗品の販売。バイオイン

フォマティックス(ライフサイエンス関連データ解析)事業。

URL: <https://www.iwai-chem.co.jp/>

聞き手: 梅垣喜通(顧問)、筒井紫乃(広報委員)、岡田康弘(編集長)、取材・撮影・編集: クリエイティブ・レイ(株)



国内未上陸を含む試薬販売を手掛け、バイオインフォマティックスの新領域を拡大。研究者と共に79年、未来を創造する「岩井化学薬品」

御社の主な事業内容についてお聞かせください。

岩井 弊社は、主にライフサイエンス領域の研究開発に必要な試薬・機器・消耗品・受託サービスなどを提供、研究者の方々を様々な領域からサポートする企業です。

1番の強みがライフサイエンス関連です。国内製品だけでなく、アメリカにIwai North America (INA)、Chondrex, Inc. という子会社が2社あるので、日本未上陸の商品を含めた輸入販売をスムーズに行える点が強みです。

Iwai North America (INA) は、アメリカ、カナダの商品を輸入・販売、混載便で輸入しているので小ロットのご注文にも対応しています。

Chondrex は、アレルギーやリウマチなどの自己免疫疾患、腎炎などの研究に関連した試薬のメーカーです。一例ですが、自己免疫疾患の研究用試薬で、従来はモデルマウスを作るのに2週間ほど掛かっていたものが、研究でノイズとなっていた要素をクリアにしたことで、2~3日で出来るようになりました。

他に北米からの試薬では、ハウスダストや、アメリカでは人命に関わる症例も多く報告されているピーナッツアレルギーなど、アレルギー関連の研究試薬なども多く取り

扱っています。

取引先は、主に基礎研究を行っている研究機関や研究者の方々を中心です。様々な企業の他、国立感染症研究所など国の研究機関、医学・薬学・歯学・農学部などライフサイエンス関連の学部がある関東近辺の大学です。

試薬の他には、ライフサイエンス関係の研究を行うために必要な機器・装置類、消耗品なども取り扱いながら、細やかに研究者のニーズにお応えしています。

そして近年、日本国内の研究発展を支える意味合いで、バイオインフォマティックスの専門部署を設けました。バイオインフォマティックスの人材派遣・クラウド型解析プラットフォームの提供・解析受託なども行っています。

バイオインフォマティクス事業について、具体的にお聞かせください。

岩井 実はライフサイエンスの研究現場では、データ解析を行うバイオインフォマティックスが不足している問題があり、そこをサポート出来ないものかと考えていました。

そこで、ライフサイエンスのバックグラウンドを持つ弊社が、バイオインフォマティクス経験や学習意欲のある人材の採用を積極的に行い、マネージャーを含め10名のバイ

経営資料

オインフォマティックスのチームを確立しました。現在は東京大学を含め、何名かを常駐派遣しております。このような人材派遣や、他の解析会社とも連携しながら、解析研究活動の支援も受託しています。

弊社はただ試薬などを販売するだけでなく、時代の変遷や研究者の方々のニーズに応じて、新しい価値を生み出すお手伝いをして行こうという動きを活発にしています。例えば、研究成果を産業利用に繋げられないかという相談が多々ありますが、そうした事案についても、実務的に秀でた企業やプレーヤーと協力・連携をしながら、試行錯誤の中で具体化していく取り組みを進めています。

創業当時の歩みをお聞かせください。

岩井 1947(昭和22)年4月に祖父が、江戸時代から薬問屋の町だった日本橋本町に創業しました。

戦後復興の中で、日本の創業研究を進めるための研究用試薬が手に入らないという課題を解決して復興に貢献しようという想いで、大学時代の仲間2、3人で立ち上げたそうです。都電が走る神田近辺をリヤカーで納品をしていたという話を古参のメンバーから聞いた事があります。

また、輸入試薬だけでなく、しばらくは汎用薬品の販売も行っていたようです。私が子どもの頃に、理科の実験で見た硝子容器に「岩井化学薬品」と書いてあったことがとても印象的でした。



創立当時の岩井化学薬品

創業者の後、私の父親の兄である伯父が2代目の社長となりました。その頃ビジネスの主軸となっていた輸入メーカーの日本進出などから、社長は輸入業だけでは会社が維持できないと判断、卸として国内メーカーとの取引を積極的に増やして事業拡大を行いました。これは会社として非常に大きな取組みで、取り扱う商品のメーカーが

大きく増え、今に繋がっています。そうした中で1982年の筑波営業所開設に始まり、2000年代に至るまで国内拠点を5カ所に増やしてきました。

海外への投資判断も2代目の時に行われ、Chondrex社とは1998年に提携を開始して2000年に経営権を獲得、また、現在のINAに至る海外拠点Iwai USAを2000年に設立しました。

ちなみに私の父親は薬学博士で、大学教員をしたのちに岩井化学に入社し、管理薬剤師兼学術責任者として、顧客向けの学術サポートや法規制管理、市場の研究トレンドを元に、会社としての注力領域をアドバイスするといった役割を担っていました。そして私は2018年に岩井化学に入社し、2020年に社長を引き継いでいます。

岩井社長ご自身のご経歴をお聞かせいただけますか。

岩井 前提として、岩井化学の社長になることは全く考えずに働いてきました。そもそも私は日本女子大を卒業後、ミシガン州立大学で労務・人材マネジメントの修士課程を修了して、レイヤーズ・コンサルティングという日本のコンサルティング会社に就職しました。生意気ながら、当時は米国での就職も考えましたが、日本人と働くことのほうが自己のレベルアップに繋がると考え、日本を就職先に選びました。中でも「日本を良くして行きたい」という思いが強く、多くの日本企業の支援を行なっているコンサルティング会社を選びました。そこで外資製薬会社などのお客様に経営戦略や業務改革などの立案を行う業務に携わりました。

8年ほど勤めた後、雪国が好きで、仕事を通して貢献したいという思いなどがあり、新潟県で地域創生事業に関わる会社を立ち上げました。自社で飲食店・宿の経営を行うと共に地元企業や行政、また同時期、新潟だけではなく東京でのコンサルティングにも携わり、二足のわらじを履いて駆け回っていました。

私は岩井化学の業績も全く知らず、それどころか仕事を始めてから家族や親族と会う時間もとれていなかったのです。そんな時、問題が次々に山積して行き、父から、「コンサルをしているのならば、解決策がないものか?」と、持ちかけられたのです。そうして提案書を持って伺い、親族といえども久しぶりに恭しく提案をさせていただいたことが始まりです。

経営資料

そうして着手した案件が、やがて私一人のコンサルタントが負える範疇でなくなってきたため、経営企画室の役員として入社しました。それから3年後の2020年に、事業承継の相談を受け、社長を引き継いで現在に至ります。

正直なところ、私が以前にやっていた仕事は、今おこなっている事と分野などもまるで違うものです。コンサル時代には過酷な労働という苦勞、起業した会社ではベンチャー企業の人・資金の悩みなど、色々な苦勞をしてきましたが、岩井化学の3代目社長としての重責は、これまで経験したものを遥かに超えるものですし、現在進行形です。自分が最終決定者であり、責任者であるということを日々感じています。

古くから在籍する社員からの反応はいかがでしたか。

岩井 少なくとも、例えば“この人に排除されようとしている”といった、抵抗的なことは特になかったような気がします。多くの社員が辞めようとしていた時がありましたが、一生懸命引き留めて、「私は絶対に会社を変えるから辞めないで」とお話し、今でも元気に支えてくれています。そういった意味では、協力者になってくれた方々がいたことを嬉しく感じてきました。

また、社長就任時は、社員が会議の時に手書きでメモをとるなど、デジタル化が遅れていましたが、まずはやってみましょうといった感じで、例えばリモート会議のパソコンのセットアップを私自身で整えたりしながら、取り入れることを進めていきました。そしてコロナ禍の中で働き方、出社、退社の定時が決まっていた形をフレキシブルにし、柔軟性を取り入れてきました。

またコロナ禍で、私自身が体調を崩して在宅を余儀なくされたことがあったのですが、その間にライフサイエンスの事を学びました。受験生が使うネットのオンライン学習や、高校生物の基礎から夜な夜な勉強するなどして、貴重な学びの時間になりました。

創業者についての思い出などはございますか。

岩井 祖父から仕事の話や直接したことはありませんが、私が社長になる時、先代から祖父の手記を渡されました。祖父は質素儉約の人で、何かの裏紙に書き留めていたものでした。

その中で経営者に求める人物像について、「人格識

見、手腕共に優れていることを望む。特に人格に重点を置く」「信念を持ちながらも部下の提言を聞き入れられる」「個人主義的精神の持ち主は絶対に選定しない」などが記されていました。それを見て、私が経営者として尊敬したくなるようなことを、祖父が考えていらっしゃったんだな、と嬉しく感じました。

また弊社では、2代目や3代目が複数人働いています。その背景には、創業者は地方から中学卒業後に上京してきた方々を採用して、高校・大学の学費支援をしながら勉強と仕事に励んでもらうことを行っていて、社員の家族と共に歩んできた風土もあるのだと思いました。

経営者として、喜びを感じた出来事、逆に困難だった出来事があれば、お聞かせください。

岩井 社長就任時に始動した「採用強化プロジェクト」を実行した結果、採用できた社員の皆さんが入社してくれた時は、非常に印象深く感じました。そして日々のことですが、若手社員の成長、ベテラン社員の活躍、社員がイキイキと働く様子を見ると、大きな喜びを感じます。

厳しさを感じたのは、入社時、事業回復と事業承継対策を同時並行で進めなければならないことでした。様々な財務リストラや体制見直しなど、あらゆる施策を講じ、難しい判断もありました。事業承継については、コンサル時代にも関わったことがない案件だったので、様々なルートからの情報収集をしながらベストな方法を模索しました。

へビーな判断に多々直面しましたが、決して感情論にならずに、論理的に進めていくことに心を配りました。当時の社長だった現会長をはじめとした経営幹部や信頼できる外部パートナーの協力を得ながら、感情論ではなく論理的・合理的に物事を進めることで乗り越えられたのではないかと思います。

御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

岩井 経営理念は「研究者と共に未来を創造する」です。研究者のパートナーとなれるよう、時代が変わる中で、変化する研究者のニーズを先読みし、「必要とするものや研究を成功させるために必要なものを自ら考え、研究者に提案し、研究をより効率的に成功に導くこと、そうすることで共に未来を創っていく」そんな会社でありたいと思います。

経営資料

私たちの業界は、将来のイノベーションのために種まきをして支え、“良い将来をつくることに貢献するビジネス”だと捉えられると思います。ですので、課題解決止まりでなく、考えもしないような新しいものをこちらから提案していった“研究者と共に新しい未来を創る”そのような会社を目指しましょうということです。

また、「誠実・チャレンジ・組織力を活かす・徹底的なPDCA・成長を楽しむ」5つのスタイルを日々仕事の中で大切にしています。

現在の課題や目標がございましたらお聞かせください。

岩井 2点あります。1つ目が既存事業を軸にしながら様々なチャレンジを行うことです。今は、意識して大きく変化をしていかないと厳しい時代であると思い、「第2の創業期」と銘打って取り組みを進めています。バイオインフォマティクス事業はその中の1つで、2030年には新規事業で利益額の10～15%を創出していくことを目指します。

2つ目は、次世代のリーダー育成です。次の社長だけでなく十数年後の経営層、経営幹部を想像しながら人材育成をしなければいけない、そして皆が仕事を楽しみながら成果を生み、その結果自分やご家族も幸せにできるような会社づくりをしなければならないと思っています。

人材採用については、「研究者と共に」を掲げている中で、研究を分かる人を採用しようということでライフサイエンスのバックグラウンドを持った人の採用を強化しております。その他事業系の社員も含めて、様々なバックグラウンドの社員が毎年10名程度入社してくれています。

このように社員の多様性が増す中で、互いに強みを活かしながら活躍できる環境を作ること、弊社で働くことを通じて、個人個人の成長や自己実現に繋げてもらうことで、働く場として選ばれる会社であり続けることが大事だと思っています。

ここからは、岩井社長の個人的なことをお聞きします。

座右の銘や愛読書などを、お聞かせください。

岩井 米沢藩主・上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」は、すごく好きな言葉です。ビジネスもプライベートも、後悔がないくらい全力で努力することでこれまでの人生も乗り切ってきましたし、自分の唯一の取り柄だと思っています。

愛読書は、京セラやKDDIの創業者である稲森和夫氏のビジネス書で、ひと通り読んでいます。特に「生き方」はゴールを描き、実現のために為すべきことを愚直に・真摯に進めていくこと、自然すること、自分のためでなく利他の精神など、私が人として大事にしたいと思っていることが詰まっている本です。悩んだ時には、元気をもらうために読み返すようにしています。

余暇に楽しんでいることはございますか。

岩井 最近あまりできていませんが、スノーボード、ボルダリング、クラシックバレエなど、体を動かすことが好きです。実は3歳から16歳までクラシックバレエをやっていて、人生初の挫折がバレリーナの夢を諦めたことでもありました。人と話したり、飲みに行くことが大好きで、誘われたら断れないたちです。休日はスーパーで手ごろなワインなども楽しんでいます。



スノーボードバックカントリー：大自然を滑る岩井社長



冬のバックカントリー：新潟県境に位置する谷川岳を歩き滑る

最後に、協会に対してのご意見やご要望がございましたら、お願いします。

岩井 この度入会した理由は、弊社での科学機器の取り扱いが増えてきていることと、バイオインフォマティクス事業の立ち上げによりJASIS展示会などでご紹介できる商品・サービスが生まれてきていることがあります。解析分野で機器メーカーの方にご教示をいただきたいこともありますし、協会での繋がりや活動を通じて、事業拡大につなげていきたいと思っています。

また、自社だけで取り組むのではなく、様々なプレイヤーの方々との協業関係を通じ、研究サポートの質の向上ができると思っておりますので、よろしく願いいたします。